

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

言語部 研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり

第4学年国語科学習指導案

単元名 ショートショートを書いてみよう ～言葉が生み出す物語～（仮）

学習材名 「作ろう！『ショートショート』」（教育出版 4年）
教師作成のショートショート

日時：令和7年2月21日(金)5校時
児童：江東区立第五大島小学校 第4学年1組 23名
担任：江東区立第五大島小学校 主任教諭 椎名 祥子
指導者：新宿区立愛日小学校 主任教諭 小黒 靖子

1 単元の目標

- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ア
- 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (1)ア	①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア)	①粘り強く題材となる「不思議な言葉」を作り、その意味や想像したことから伝えたいことを明確にし、自分の考えた展開に沿ってショートショートを書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級の児童は、前年度までの国語科の学習の書く単元において、教科書の挿絵を基に物語を創作する経験をしている。今年度は調べたことをまとめる学習や、調べたことを基に自分の意見を書く学習、季節を表す言葉を意識した俳句作りなどに取り組んできた。また、常時活動として週に1回程度、自主学習の振り返りとそのとき感じたことをタブレットに入力して担任に送ることや、2学期からは国語科の学習を中心として、自分が気になった言葉や心に残った言葉、新しく知った言葉など大切にしたい言葉を「言葉集めノート」に書く活動を行っている。

本単元を行うにあたり、国語科や「書くこと」の学習に関する意識調査を行った。結果は以下のとおりである。

(令和6年12月16日実施 23名)

質問	児童の回答	人数(割合※小数第1位四捨五入)
①国語の学習は好きですか。 (選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	8名(35%) 11名(48%) 3名(13%) 1名(4%)
②書くことの学習-(1) 日常生活で体験したことを文章にすることは好きですか。(選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	8名(35%) 8名(35%) 3名(13%) 4名(17%)
②書くことの学習-(2) 自分の考えを文章にすることは好きですか。(選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	3名(13%) 11名(48%) 8名(35%) 1名(4%)
②書くことの学習-(3) 物語や詩、俳句などを自分で考えて書くことは好きですか。(選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	11名(49%) 4名(17%) 4名(17%) 4名(17%)
②書くことの学習-(4) 実験や観察の様子を記録したり、調べたことを書いたりすることは好きですか。(選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	11名(48%) 6名(26%) 4名(17%) 2名(9%)
③文章を書くことは得意ですか。 (選択式)	・得意 ・どちらかといえば得意 ・どちらかといえば得意ではない ・得意ではない	3名(13%) 7名(30%) 7名(30%) 6名(27%)
④文章を書くときに気を付けていることは何ですか。 (自由記述)	・「、」や「。」を書く ・1マス空けて書く ・字をきれいに書く ・習った漢字を使って書く ・相手が読みやすいかどうか ・その他各1名 多く書く/段落を分ける/言葉に気を付ける/言葉を間違えない/書くのを忘れない/書くべきことがきちんと書けているか/相手に伝わるかどうか/分かりやすい文にするためにどうするか	7名 5名 4名 2名 2名
⑤文章を書くときに、困っていることや難しいと思うことはありますか。(選択式)	・ある ・ない	10名(43%) 13名(57%)
⑥どんなときに困ったり、難しいと感じたりしますか。 (自由記述)	・各1名 段落を分けるとき/「、」「。」を書くとき/文章を読んでまだ理解できていないとき/(何を書くのかを)忘れてしまうとき/どういう表現をしたらよいか分からないとき/意見を書くとき/理由などを書くとき/どうやって書けばよいか分からないとき/社会などの新聞のとき、少ない字数でどれだけ分かりやすく要約するか	
⑦ふだんから、言葉を調べたり、集めたりするのが好きですか。 (選択式)	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	7名(30%) 9名(39%) 2名(9%) 5名(22%)

意識調査の結果から、本学級の83%の児童が国語科の学習を肯定的に捉えている。「書くこと」の学習については、文種による違いはあるものの、60%以上の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と回答しているが、文章を書くことが「得意」「どちらかといえば得意」と感じている児童の割合は43%と、それよりもやや少なくなっている。書くことが得意ではないと感じる理由や、書くときの困り感については、「何を書くのかを忘れてしまう」や「どうやって書けばよいか分からない」「自分の意見や理由を文章にするのが難しい」などの回答があり、何をどのように書くのかという見通しをもてないまま、書くことに取り組んでいる児童の

様子がうかがえる。また、文章を書くときに気を付けていることを尋ねる質問に対しては、「句点や読点を書く」など、文章の表記に関することが多く挙げられ、内容や読み手を意識している児童は少ないことが分かった。

そこで本単元では、「書くこと」の学習過程の「題材の設定、情報の収集、内容の検討」を指導の中心にして、児童が自ら作る「不思議な言葉」を題材とし、「不思議な言葉」の意味を考え、想像を広げたり、新しい解釈を生み出したりすることで書きたいことを明確にし、短い物語を書き上げることを目指す。常時活動として取り組んでいる「言葉集めノート」を活用しながら、言葉と言葉を組み合わせることで「不思議な言葉」を作ったり、既存の言葉や表現を新しい視点で捉え直したりすることを通し、「言葉は意味を広げたり、新しい解釈を生み出したりすることができる」ことに児童が気付けるようにしていく。また、個人や友達と「不思議な言葉」の意味を考えたり、想像したことを基に物語の内容や構成を考えたりする中で「伝えたいことが明確になるように情報を集め、複数の材料から題材を選択するとよい」ことにも気付けるようにしていく。

(2) 学習材について（学習材観）

① ショートショート

ショートショートとは、小説的な構成をもった、極めて短い読み物である。長さに明確な規定はなく、小説の中でも特に短い作品を指し、「超短編小説」と呼ばれることもある。定義には諸説あり、「新鮮なアイデア、完全なプロット、意外な結末」の三原則が盛り込まれたものとされる他、教育出版の教科書では、「短くて不思議な物語」と紹介されている。ショートショートのジャンルは、SF・ミステリー・ユーモア小説など様々であるが、ショートショートであるかどうかは、「アイデアと、それを活かした印象的な結末のある物語」で、「作品に何らかの新しいアイデアが含まれているかどうか、さらにはそのアイデアをうまく活用した印象に残る結末になっているかどうか」が判断の基準になる」と述べられている。（『たった40分で誰でも必ず小説が書ける 超ショートショート講座 増補新装版』田丸雅智 WAVE 出版）

本単元におけるショートショートとは、後述する「不思議な言葉」を題材とした100字から400字程度の短い物語である。児童自身が考え、選んだ「不思議な言葉」から想像を広げたり、新しい解釈を生み出したりしながら伝えたいことを明確にし、出来事や結末を工夫しながら作品を書き上げることを目指す。

② 題材

ショートショートの題材となるのは、言葉を組み合わせることで作ったり、既存の言葉や表現から想像を広げて解釈したりする「不思議な言葉」である。本単元では、以下の四つの方法を使って「不思議な言葉」を作る。

「不思議な言葉」の成り立ち	例	言葉の意味・想像する事柄
① 言葉と言葉を組み合わせる。	レモン+自転車=レモン自転車	レモンがタイヤになっている自転車。果汁を絞って飲める。
② しりとりを使って作る。	ひつじ+じかん=ひつじかん	ひつじの数を数えなければいけないくらい、なかなか眠れない時間のこと。
③ 同音異義語を使って作る。	冷蔵庫→霊蔵庫	先祖の霊を保存してあるもの。よく冷える。
④ ことわざや慣用句をそのまま使う。	棚からぼたもち	開ける度に新しいぼたもちが出てくる戸棚。

③ モデル作品

ショートショートを書くにあたり、児童の興味・関心を高め、題材となる「不思議な言葉」の成り立ちを考えたり、「不思議な言葉」から広げた想像や新しい解釈を生かした物語の内容や構成、結末について考えたりできるよう、教科書教材に加えて教師や4年生の児童が書いた複数のモデル作品を提示する。前述の「不思議な言葉」の四つの成り立ちに加え、200字未満の短い作品から800字程度のやや長い作品まで複数のモデルを提示することにした。また、同じ「不思議な言葉」を使った異なる内容や構成、結末の作品も提示し、児童が物語を構想する際の参考となるようにした。

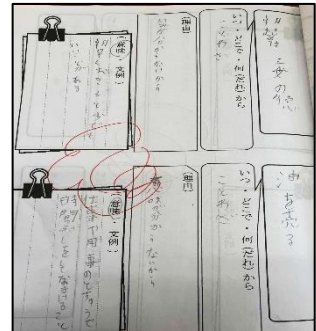
【モデル作品一覧】

言葉の成り立ち		200字未満	200～400字	400～800字
言葉	名詞+名詞	正直えんぴつ いっすんぼうしのせいくらべ	ソーダあめ	レモン自転車
	形容詞+名詞	俊足	ひえぐるみ	ぼかたんす
	動詞+名詞	スキップえんぴつ	しゃべる教科書	やり直しトイレ

しりとり	とけいんこ	ひつじかん① ひつじかん② ふくり だるマスク	つかれたんこぶ
同音異義語	れいぞうこ	かりん党 そうじ木	
ことわざ・慣用句	絵にかいたもち けんか両成敗	耳にたこができる 首を長くする 足がぼうになる のどから手が出る	たなからぼたもち① たなからぼたもち② 鬼の目にも涙

④「言葉集めノート」

「言葉集めノート」は、児童が気になった言葉や心に残った言葉、新しく知った言葉を書き溜めていくカードをつづったものである。見つけた「言葉」「きっかけ」「意味または理由」「文例」などを記録している。国語科の学習の中だけでなく他教科や日常生活の中で見つけた言葉も書くようにし、自分だけの「言葉集めノート」を作ることを目指す。継続する中で「言葉集めノート」に書き溜めた言葉を使って文章を書いたり話したりするなど、集めた言葉を表現に活用することも目指している。「言葉集めノート」の取り組みを通して、日常生活の中で言葉を意識する習慣を育てるとともに、児童の語彙を豊かにすることができる考えた。



本单元においても、物語の題材となる「不思議な言葉」を作るときや、題材に応じて物語を書き進めるときに「言葉集めノート」に書き溜めた言葉を活用できるように促していく。

(3) 単元について（単元観）

本单元では、言葉と言葉を組み合わせたり、知っている言葉や表現から想像を広げて解釈したりして題材となる「不思議な言葉」を作り、題材を生かしたショートショートを書くことをねらいとしている。

本单元における「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉や表現に着目し、これまでの知識や経験を生かして新しい言葉を作り、その言葉の意味を考えると、さらに、言葉から想像したことを基に物語の内容と構成を考えること」と捉えた。児童は、言葉と言葉の意外な組み合わせからできる「不思議な言葉」や、本来の意味から離れたことわざや慣用句などの「不思議な言葉」から題材を選択し、言葉の意味や考えたことから想像を広げてショートショートを書く。学習を通して、「言葉による見方・考え方」を働かせることで、新たに言葉を作り出したり、既にある語句や表現を異なる視点から解釈したりする活動そのものや、言葉を使って自分が想像した世界を表現する楽しさを児童が感じられるようにしたいと考えた。

そこで、言語活動に対する児童の興味・関心を引き出し、見通しをもって学習を進めることができるよう単元全体を「出合う」「親しむ」「生かす」の三つの段階で構成した。

【出合う】	ショートショート作品を読み、題材となる「不思議な言葉」の成り立ちについて考えたり、友達と一緒に「不思議な言葉」を作ったりする。
【親しむ】	題材となる「不思議な言葉」を選び、その意味を考え、想像を広げて物語の内容と構成に沿って書く。
【生かす】	書き上げた作品を友達と読み合い、感想を伝え合うことを通して、友達の作品のよさに気付き、「不思議な言葉」の設定に沿った作品になっているかを確認する。物語のおもしろさとは何かについて考える。

「出合う」段階では、複数のショートショートを読み、作者が作り出した「不思議な言葉」が作品の題材となっていることを捉える。さらに、「不思議な言葉」の成り立ちを考え、自分でも言葉と言葉を組み合わせ、新しい言葉を作ったり、言葉や表現をこれまでとは異なる視点から解釈したりして「不思議な言葉」を作る。

「不思議な言葉」の意味やその言葉から想像したことを友達と伝え合うことで、「ショートショートを書いてみたい」「自分でもショートショートが書けそうだ」という学習活動に対する意欲と見通しをもつ。

「親しむ」段階では、「学びの手引き」を基にして、自分に合った方法で学習を進める。自分が選んだ方法で「不思議な言葉」を作り、その言葉の意味や言葉から想像したことを整理するために、複数のワークシートの中から必要なシートを選んで物語の内容や構成を膨らませていく。そして、物語の内容と構成を検討し、「こんな物語を書きたい」という個別の課題をもってショートショートを書き始める。必要に応じて同じ学習過程にいる友達や、先に進んでいる友達と話し合いながら自分が伝えたいことを意識して書き進めていく。

「生かす」段階では、友達と互いのショートショート読み合い、感想を伝え合うことを通して、作品を書き上げた達成感を味わえるようにする。また、自分が題材として選んだ「不思議な言葉」の意味や、言葉から想像したことが伝わる作品になっているかを確認する。どのように「不思議な言葉」を作ったのか、「不思議な言葉」

からどうやって物語の内容と構成を膨らませたのかについて振り返り、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしていく大切さを実感させたいと考える。さらに、単元の「出合う」段階で捉えていた「物語のおもしろさ」と学習を終えた時点での考えを比較し、「物語のおもしろさとは何か」について自分の考えが広がっていることを確かめる。

単元終了後には、学んだことを生かし、新しい語句や表現に興味をもって意味や使い方を知らうとしたり、「言葉集めノート」に書き留めたりする姿や、「不思議な言葉」を題材とした別のショートショート作品を書いたり、出版されているショートショート作品を読んだりする姿など、豊かな言語生活へとつながる児童の姿が見られるようになることを期待したい。

4 言語部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

言語部では「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉に着目し、意味や役割、効果を考え、意識して使おうとすること」であると考えられる。

児童が、自分の思いを表現したり情報を基に自分の考えを形成したりしようとする際に、言葉の意味や効果に着目し（言葉による見方）、比較や類推等の概念的思考を働かせて考え（言葉による考え方）、より適切に判断しようとしている姿が、「言葉による見方・考え方を働かせる」姿である。さらに、「言葉による見方・考え方」を働かせたことを振り返り、「言葉のよさ（役割や効果）」を実感することで、言葉への自覚を高めることができる。これらの経験を重ねていくことで、児童の語彙を豊かにし、豊かな言語生活者が育っていくのだと考える。

「書くこと」の学習では、様々な言葉や表現に着目し（言葉による見方）、比較したり類推したりして（言葉による考え方）、自分の思いや伝えたい内容に適切な言葉や表現を選択しようとするのが、「言葉による見方・考え方を働かせる」ことであると考えられる。それぞれの学習過程の中で、どの言葉や表現がより適切なのかを比較し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して最適なものはどれかを考え判断しようとする際に、「言葉による見方・考え方を働かせる」のである。

「言葉による見方」は、知識及び技能の内容の（1）言葉の特徴や使い方に関する事項から、「語彙」「表現の技法」「文や文章」を取り上げた。「言葉による考え方」は、知識及び技能の内容の（2）情報の扱い方に関する事項の「情報と情報との関係」「情報の整理」や先行研究を参考に概念的思考を設定した。

		低学年	中学年	高学年
言葉による見方	語彙	身近なことを表す語句	様子や行動、気持ちや性格を表す語句	思考に関わる語句
	表現の技法	(比喩・反復などの表現の工夫)	(比喩・反復などの表現の工夫)	比喩・反復などの表現の工夫
	文や文章	主語と述語との関係	主語と述語との関係 修飾と被修飾との関係 指示する語句と接続する語句の役割 段落の役割	語句の係り方や語順 文と文の接続の関係 話や文章の構成や展開 話や文章の種類とその特徴
言葉による考え方	概念的思考			----- 分解 抽象化 具体化 系統化 一般化 ----->
			----- 因果 分類 ----->	
		----- 比較 類推 ----->		

どの言葉や表現がより適切なのかを比較する際には、語句を理解するための方策「①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化」を使って考える。その際、友達とどのような言葉や表現があるかを出し合ったり、それぞれの言葉や表現からどのような印象を受けるかを話し合ったりすることが欠かせない。他者と協働することにより、「新たな言葉との出会い」や「言葉の意味や役割、効果」「人による感じ方の違い」等に気付き、言葉への理解を広げたり深めたりすることができるのである。学習の中でこれらの経験を重ねることで、児童の言語感覚を耕し、語彙を豊かにしていく。このような学習を継続することが、豊かな言語生活の実現につながると考えた。

言語部では「豊かな言語生活」について、三つの側面から捉えている。

ア：言葉そのものへの興味・関心

言葉を意識し、言葉に関心をもって生活し、言葉に親しんでいる。

- ・言葉の並びやリズム、韻や言い回しのおもしろさや心地よさを楽しんでいる。
- ・言葉遊びや短歌・俳句、伝統的な言語文化などを楽しんでいる。
- ・言葉に出合ったとき、「おもしろいな」「かっこいいな」「すてきだな」などの思いをもって生活している。
- ・気になる言葉に出合った際、意味や使い方を調べたり、いつか使ってみよう書き留めたりしている。
- ・その言葉の仲間が他にもないかと調べたり集めたりしている。

イ：自己内対話

自分の思いを言葉にすることにより意識化し、感性や情緒、思考を活性化したり明確化したりしながら内言を充実させている。

- ・言葉を用いて論理的に思考し、自分の考えを広げたり整理したりしている。
- ・自分の中にある漠然とした思いを言語化することで感情を明確にしたり豊かにしたりしている。
- ・書いたり話したりする際に、自分なりのこだわりをもって言葉や表現を選択し、使おうとしている。

ウ：他者とのコミュニケーション

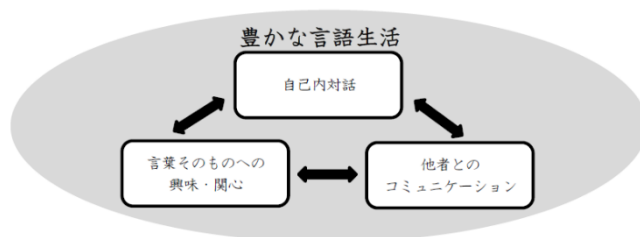
言葉の働きを意識して、思いや考えを他者とよりよく伝え合おうとしている。

- ・発表や話し合い、交渉などで、考えを伝え合い、理解を深めたり問題を解決したりしている。
- ・他者と関わり合う際に、言葉から相手の思いを理解し、円滑なコミュニケーションを取っている。
- ・言葉には人間関係を構築する働きがあることを意識し、言葉を介して他者と良好な人間関係を築いていこうとしている。

これらの三つの側面は、互いに関連し合っている。

「Aという言葉があるんだ。おもしろいな」という「言葉そのものへの興味・関心」の側面が、「このことを書くときにあのAという言葉を使ってみようかな」という「自己内対話」の側面につながり、「〇〇さんにこのことを伝えるためには、あのAという言葉を使うのはどうかな」という「他者とのコミュニケーション」の側面にもつながる。

このように、それぞれの側面を行きつ戻りつしながら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていく。他者とつながり、関わり合いながら、自分で考え、意思決定し、社会の一員として生きていくためには、言葉が不可欠である。言葉に親しんだり「言葉による見方・考え方」を働かせたりする経験を重ね、児童の語彙を充実させていく学習を継続することが、児童の言語生活の充実につながる。そして、言語生活が充実することで豊かな言語生活者が育っていくのだと考える。



5 研究主題に迫るために

本単元において、児童が「身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」とは、「語句や表現の本来の意味から想像することで自分のもつ言葉の意味を広げたり、新しい解釈を生み出したりして、ショートショート題材に使いたい『不思議な言葉』を選択することである。そして、『学びの手引き』を基に自分に合った方法で学習を進め、対話の相手を自分で選択しながら、伝えたいことを明確にし、『不思議な言葉』の設定に沿ったショートショートを書こうと試行錯誤する姿」である。

「児童が身に付けたい力を意識する」とは、児童一人一人がショートショートを書く過程で、「題材となる『不思議な言葉』から想像を広げたり、新しい解釈を生み出したりして、伝えたいことが明確になることを意識する」ことである。

「自ら学びを進める」とは、「学びの手引き」を基にして、「自分に合った方法で学習を進め、対話の相手を自分で選択しながら、『不思議な言葉』と物語の展開を比較検討し、伝えたいことが明確になるように行きつ戻りつしながらショートショートを書く」ことである。

そのため、言葉と言葉を組み合わせることや、ことわざや慣用句の意味を確認するなどして、自分のもっている言葉の意味や表現の本来の意味から想像を広げ、新しい解釈を生み出したりすることなど、多様に「不思議な言葉」を作り、物語の内容や構成を考えられるよう単元構成を工夫し、自分の課題意識をもって学習を進めることができるようにした。

本単元終了後も、日常生活で使う言葉や新しく知った言葉など、語句や表現に興味をもち、その意味や使い方を知らうとしたり書き留めたりすること、自分の思いや考えが相手に伝わるかを考えて、話したり書いたりすること、また、相手の意図を考えながら聞いたり読んだりすることで豊かな言語生活につながっていくと考える。

研究主題に迫るために、【出合う】【親しむ】【生かす】の三段階の単元構成とし、学習活動や手だてを工夫する。

(1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

本単元における「児童が身に付けたい力を意識する」姿とは、児童一人一人がショートショートを書く過程で、「不思議な言葉」を作り、「様々な方法で言葉を作りたい」「不思議さが伝わるように書きたい」「『不思議な言葉』からのおもしろさを伝えたい」などの思いをもって個人の学習課題を設定している姿である。

また「主体的に学習に取り組む」姿とは、「学びの手引き」を基にして、自分が最適だと考える学習計画を立案し、「～したい」という思いをもって自らの責任と判断をもって学習に取り組み、自分の学習課題を解決するために方法や形態、対話の相手などを自分で選択しながら進め、「不思議な言葉」と物語の内容や構成を比較検討し、伝えたいことが明確になるように行きつ戻りつしながらショートショートを書こうとしている姿である。

本学級の児童は、個人の課題を設定して学習に取り組む経験はあまり多くない。本単元では、学習活動を通して一人一人が自分の課題意識をもち、自分の課題を設定し、「学びの手引き」を基に、方法や形態、対話の相手などを自分で選択しながら学習を進める姿を目指したい。

①【出合う】:「不思議な言葉」の作り方を知り、単元の学習課題を設定する。

出合う段階では、児童の「ショートショートっておもしろい」「『不思議な言葉』を作ることが楽しい」「ショートショートを書いてみたい」という思いを高めるようにする。ショートショートを読んだ感想を話し合ったり不思議な言葉の作り方を知ったりする中で、「『不思議な言葉』を作れそう」「この言葉からこんなお話を書きたい」という思いをもてるようにしていく。

第1時では、教育出版の教科書教材「ぼかたんす」を読み、感想や作品のおもしろさを話し合い、「不思議な言葉」を作る活動を設定する。作品のおもしろさを出し合う中で、「どうしてこんな言葉ができたのだろう」「どうして物語がおもしろいのだろう」「どうしたらおもしろさが伝わるだろうか」などの問いをもち、それらを基に単元の学習課題を設定する。また、それが個人の課題へとつながるようにしていく。課外の時間では、教科書教材のショートショート、教師や児童が作成したショートショートをまとめて読めるようにしておいたり、教室にショートショートに関連する本を置いたりすることで、「様々な方法で言葉を作りたい」「不思議さが伝わるように書きたい」「不思議な言葉からおもしろさを伝えたい」という思いをもち、主体的に学習に取り組むことができる考えた。

②【親しむ】:「不思議な言葉」を作り、言葉の意味や想像したことを基にショートショートの題材を決め、内容や構成、結末の見通しをもち、自分で学習の方法や形態などを選択してショートショートを書く。

親しむ段階では、自分が作り、選んだ「不思議な言葉」の意味から想像を広げたり、新しい解釈を生み出したりして、伝えたいことが明確になるように考え、児童が自分の「身に付けたい力を意識」して個人の学習課題を設定できるようにする。

第2時に立てた単元の学習課題と学習計画からできた「学びの手引き」に沿って、第3時から第5時までは自分が最適だと考える学習計画を立案し、「～したい」という思いと、自らの責任と判断をもって学習に取り組んでいく。学習活動の最低限のラインは示すが、基本的には児童に委ねる。常時活動で書き溜めていた「言葉集めノート」を活用しながら、第2時で知った「不思議な言葉」の成り立ちを生かして「不思議な言葉」を作ったり選んだりする。そして、「不思議な言葉」の意味と良い面や悪い面などを具体的に書いたり、必要に応じて物語の内容や構成を書いたりといったように、自分のもっている書く力や、自分の思考や思いに合わせて、児童自身が複数のワークシートから必要なものを選び、学習を進めることができるようにする。

伝えたいことを明確にするためには、題材とのつながりが欠かせない。「不思議な言葉」の意味から想像を広げたり、新しい解釈を生み出したりすることで、言葉のおもしろさに気付かせ、内容や構成、結末の見通しをもって、ショートショートを書けるようにする。作った「不思議な言葉」のどれが自分の書きたい物語に合っているのかを考えたり、読み手に伝わるように「不思議な言葉」の特徴について整理したりする必要があることにも気付かせていく。その後、「不思議な言葉」のおもしろさが伝わるように、書いた文章を読み返したり、物語を書き上げた児童同士で読み助言し合ったりする。

これらの活動を通して、「『不思議な言葉』の設定に沿った物語になっているか」という意識をもって学習に取り組むことができるようにしていく。学習課題、学習方法や形態、対話の相手、自分に必要なワークシートなどを自分自身で選択することで自分の学習に責任が生まれ、より主体的に取り組めるようになる考えた。

③【生かす】:書き上げた作品を友達と読み合って学習を振り返る。

生かす段階では、互いの作品を読んで感想を伝え合い、自分の考えた「不思議な言葉」と書き上げたショ-

トショートの内容と構成について考える。「身に付けたい力を意識」し、学習方法や形態、対話の相手を自分で選択して「主体的に学習に取り組む」中で、自分が作ったり選んだりした「不思議な言葉」の不思議さやおもしろさを伝える物語になっているかを振り返る。『「不思議な言葉」の設定に沿った物語になっているか』という意識をもって学習を振り返ることができるようにする。

第6時では、「結末は不思議な感じで終わる話を書きたい」「最後は笑えるおもしろい話を書きたい」「終わりは少し驚きのある話にしたい」など個別の課題に沿った物語になっているかを振り返る。その際、友達の記事から気になった言葉や表現は「言葉集めノート」に書き溜めていく。また、ショートショートを書くことを通して考えた「物語のおもしろさ」を【出合う】段階の考えと比較し、単元の学習全体を振り返る。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。
(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

友達との対話を通して、語句や表現の本来の意味から、自分のもっていた言葉の意味を広げたり新しい解釈を生み出したりして、ショートショートの題材に使いたい「不思議な言葉」を選択する。「不思議な言葉」作りを通して、言葉の意味の多様さへの気付きを広げたり新たな表現と出合ったりすることで、言葉や表現への見方を新たにし、「言葉による見方・考え方」を働かせて、ショートショートの題材によりふさわしい「不思議な言葉」を選択しようとするができるようにする。また、読み合って相互評価をすることで、自分の文章のよさに気付いたり、友達の記事から新たな言葉や表現を知り、新しい言葉の解釈を得たりして、更なる課題意識をもつことができるようにする。

①【親しむ】：友達と対話して「不思議な言葉」を比較検討し、「不思議な言葉」のおもしろさが伝わる題材を選択する。

第3～5時（主に第3時）では、まず「不思議な言葉」を作り、言葉の意味や想像したことを基にショートショートの題材を決める。作った「不思議な言葉」から、その言葉の不思議さやおもしろさについて話し合ったり物語の内容や構成について相談したりすることで、言葉に対する感覚を高めたり、意味の理解を深めたりすることができる。これらの活動を通して、「不思議な言葉」のおもしろさを明確にするとともに、「言葉による見方・考え方」を働かせて、自分が伝えたいことがより明確になる「不思議な言葉」を選択できるようにする。

②【生かす】：互いのショートショートを読み合い、言葉や表現を知って解釈を得たり、自分の「個別の課題」を振り返ったりし、新たな課題意識や次の活動への意欲を高める。

第6時では、書き上げたショートショートを読み合い、感想を伝え合う。互いのショートショートを読み合うことを通して、『「不思議な言葉」が同じでも、書く人によって物語の展開がこんなにも違う』『この言葉からこんな想像をしているのがおもしろい』など「不思議な言葉」から、言葉そのものの意味や解釈を広げ、言葉のおもしろさに気付かせる。そして、気になった言葉については、常時活動で行っている「言葉集めノート」に書き溜める。また、「不思議な言葉」の設定に沿った物語になっていたかを友達の感想からも振り返る。「結末は不思議な感じで終わる話を書きたい」「最後は笑えるおもしろい話を書きたい」といった個別の課題と友達から貰った感想を照らし合わせ、「おもしろさが伝わってよかった」「終わり方に驚いてくれた」「もっとおもしろさを伝えるには、この言葉もよかったかもしれない」など、自分が考えた「不思議な言葉」のおもしろさが読み手に伝わっているのか、「不思議な言葉」からどのように内容と構成を膨らませたのかを振り返る。「言葉の意味をもっと考えたい」「相手に伝えるように書くために、この言葉を使おう」「○○ということを伝えるには、どの言葉がよいか」など、言葉を意識して題材を決めたり、伝えたいことを明確にしたりしようとするなど、今後につながる新たな課題意識をもつこともできる。そして、「伝えたいことが相手により伝わるにはどの言葉を使ったらよいか」と自己調整する姿が現れ、学習だけでなく今後の日常生活につながっていくことを期待する。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元の学習をその後の常時活動や日常生活に生かしている場面を具体的に想定し、児童が獲得した言葉の力を活用できているかどうかを見取り、今後の指導に反映することができるようにする。

【生かす】：単元終了後の日常生活において、言葉の意味の広げ方や伝えたいことを明確にすることなど学んだことを意識し、日常生活でも活用しようとする。

言語部が目指す豊かな言語生活とは、言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使い、よりよく人と関わったりしながら生活することである。（4で前述）

本単元で、児童は「言葉は意味を広げたり、新しい解釈を生み出したりすることができる」「伝えたいことが明確になるように、複数の材料から題材を選択するとよい」ことを学ぶ。

単元終了後には、以下の三つの姿が現れることを期待する。

ア：新しい語句や表現に興味をもち、その意味や使い方を知ろうとしたり書き留めたりしている。

イ：ショートショートを読んだり、書いたりしている。

ウ：自分の思いや考えが相手に伝わるかを考えて、話したり書いたりしている。また、相手の意図を考えながら聞いたり読んだりしている。

今後の学習や日常生活の中で、これらの姿が現れることが、本単元で獲得した言葉の力を活用していることである。これらの経験を重ね、語彙を豊かにしていくことが、児童の言語生活を豊かにしていくことであると考えられる。

6 単元計画（全6時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次 出会う	1	1 ショートショートの題名から内容を想像し、読んだ感想や作品のおもしろさを出し合う。物語のおもしろさとは何かについて自分の考えを書く。	○題名から想像したことや、作品のおもしろさを話し合う中で、題材に着目できるようにする。	
		2 学級全体で、言葉を組み合わせ、「不思議な言葉」作りをする。	○題材となる「不思議な言葉」の成り立ちについて考え、同じ方法を使って言葉作りを試してみるよう促す。	
		3 個人や友達と「不思議な言葉」を作り、言葉の意味を考える。 (ワークシート) ・「がったいシート」	○「不思議な言葉」の意味を考え、物語の内容につながるよう言葉から想像することを話し合うよう促す。	
		4 「不思議な言葉」の定義を共有する。	○「不思議な言葉」とはどのようなものなのかを児童の言葉で定義する。	
課外		ショートショート作品の中から興味をもったものを読む。	○教科書の学習材以外のモデル作品を複数提示する。	
第二次	2	1 これまでに読んだショートショートの「不思議な言葉」と作品のおもしろさについて交流する。	○題名と内容の関係や、作品のキーアイテムとなっている物や事柄に着目するよう助言し、「不思議な言葉」が作品の題材となっていることに気付けるようにする。	
		2 「不思議な言葉」の成り立ちを話し合い、名前を付ける。	○自分のお気に入りの作品について、その題材となっている「不思議な言葉」の成り立ちについて考えるよう促す。 ○「不思議な言葉」の成り立	

		<p>3 「不思議な言葉」を個人や友達と作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(ア) 言葉を組み合わせる。 (イ) しりとりを使って作る。 (ウ) 同音異義語から作る。 (エ) ことわざ・慣用句をそのまま使う。</p> </div> <p>〈ワークシート〉 ・「なりたちシート」</p> <p>4 誰にどのように伝えるのかを明確にし、単元の学習課題と個別の課題、学習計画を立てる。</p>	<p>ちに名前を付けて整理するよう促す。</p> <p>○「不思議な言葉」を作り、その意味や言葉から想像することを伝え合うことで、「自分でもショートショートを書いてみたい」「書けそうだ」という気持ちをもてるようにする。</p> <p>○伝える相手と目的を明確にして単元の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○書くことの学習過程を児童と一緒に考え、学習計画を学級全体で共有し、「こんな物語が書きたい」という個別の課題をもてるようにする。</p>	
<p>第二次 親しむ</p>	<p>3 本時 「学びの手引き」に沿って個々のペースで学習を進める</p>	<p>1 「学びの手引き」を使い、学習の見通しをもつ。</p> <p>2 これまでに作った「不思議な言葉」を振り返ったり、「言葉集めノート」を活用しながら「不思議な言葉」を作ったりする。</p> <p>3 「不思議な言葉」の意味や特徴、良い面・悪い面について考える。 〈ワークシート〉 ・「それなにシート」</p> <p>4 題材となる「不思議な言葉」を決める。</p>	<p>○「学びの手引き」とワークシートを活用して、自分に合った方法でショートショートを書くことを児童と確かめる。</p> <p>○「言葉集めノート」に使えるような言葉がないか、読み返してみるように助言する。</p> <p>○一つの方法だけでなく、いくつかの方法を試すとよいことを伝える。</p> <p>○自分で考えた「不思議な言葉」の意味や、言葉から想像したことを友達と伝え合うとよいことを助言し、物語の内容が膨らむようにする。</p> <p>○物語の内容や構成が浮かぶ言葉を選ぶよう助言する。</p> <p>○自分がどの段階にいるのかを「学びの手引き」で確かめ、学習の見通しをもったり、相談する相手を見付けたりして次時の学習の進め方について考えるよ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔知識・技能①〕 <u>ワークシート</u> ・言葉を集め、四つの成り立ちから「不思議な言葉」を作ったり、言葉や表現を新しい視点で解釈したりしているかの確認</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 <u>ワークシート・観察</u> ・「不思議な言葉」の意味やその言葉から想像したことを基に、ショートショートの内容と構成をもっているかの確認</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>ワークシート・観察</u> ・題材の意味や想像したことから伝えたいことを明確にし、自分の考えた内容と構成に沿ってショートショートを書こうとしているかの確認</p> </div>

	4	<p>5 「不思議な言葉」の意味や特徴、良い面・悪い面からショートショートの内容と構成を考える。 〈ワークシート〉 ・「せていシート（物語の内容）」 ・「てんかいシート（物語の構成）」</p> <p>6 「不思議な言葉」の設定に沿って、ショートショートを書く。</p>	<p>う促す。</p> <p>○必要に応じてワークシートを選んで学習を進めるよう助言する。また、同じ学習過程にいる友達や、先に進んでいる友達と話し合うことを促す。 ○言葉の意味や想像することを比べたり整理したりして、物語の内容と構成を膨らませるよう助言する。</p>	
	5	<p>7 書いた文章を読み返し、誤字脱字などを修正する。</p> <p>8 書き上げた人から読み合い、よりよい作品になるよう助言し合う。</p>	<p>○物語の内容と構成が膨らまない場合は、題材の設定からやり直してもよいことを助言する。 ○次時の学習の進め方について考えるよう促す。</p> <p>○個別の課題と文章の表現に差異はないか確かめながら、書いた文章を読み返し、書き直してもよいことを助言する。</p> <p>○友達の感想を生かして文章を修正することを助言する。 ○書き上がった児童には、次の作品を書いてもよいことを伝える。</p>	
第三次 生かす	6	<p>1 友達と作品を読み合い、感じたことを「よんだよシート」に書く。</p> <p>2 よいと思う言葉や表現があれば、「言葉集めノート」に書き溜める。</p> <p>3 不思議な言葉の設定に沿った作品になっているかなど、個別の課題について振り返る。</p> <p>4 物語のおもしろさとは何かについて自分の考えを書く。</p>	<p>○言葉の意味を考えることや、伝えたいことを明確にして書くことの大切さを実感できるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔知識・技能①〕 ワークシート ショートショート作品 ・題材とした「不思議な言葉」の意味や特徴が生かされたショートショートになっているかの確認</p> </div>

7 本時の学習（3/6）

(1) 本時のねらい

「不思議な言葉」を作り、その意味や特徴、良い面・悪い面を考え、ショートショートの題材を決めることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時までの学習を振り返り、「学びの手引き」を使って単元の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○「学びの手引き」とワークシートを活用して、自分に合った方法でショートショートを書くことを児童と確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>付けたい力を意識する場面</p> </div> <p>○ショートショートの題材は「不思議な言葉」であり、その意味や特徴から物語の内容と構成を考えることを児童と確かめる。</p>	
<p>ショートショートの題材になる「不思議な言葉」を決めよう（仮）</p>		
<p>2 これまで作った「不思議な言葉」を振り返ったり、「言葉集めノート」を活用しながら「不思議な言葉」を作ったりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>不思議な言葉の成り立ち (ア) 言葉を組み合わせて作る。 (イ) しりとりを使って作る。 (ウ) 同音異義語から作る。 (エ) ことわざ、慣用句をそのまま使う。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自ら学びを進める場面</p> </div> <p>○学習形態（個人または複数人）を自由に選択させる。 ○「言葉集めノート」に使える言葉がないか、読み返してみるように助言する。 ○いくつかの方法を試すとよいことを伝える。 ○題材の候補となりそうな言葉に印を付けさせる。</p>	
<p>3 「不思議な言葉」の意味や特徴、良い面・悪い面について考える。 〈ワークシート〉 ・「それなにシート」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>言葉による見方・考え方を働かせる場面</p> </div> <p>○言葉の意味や、言葉から想像したことを書くように促す。 ○自分で考えた「不思議な言葉」の意味や、言葉から想像したことを友達と伝え合うとよいことを助言し、物語の内容と構成が膨らむようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕 ・「不思議な言葉」について、その意味や言葉から想像したことを書いたり、友達と伝え合ったりしている。</p> </div>
<p>4 題材となる「不思議な言葉」を決める。</p>	<p>○物語の内容と構成が思い浮かぶものを選ぶよう助言する。 ○「不思議な言葉」を作ることが難しい児童には、前時までに作った言葉から選んだり、友達と同じ言葉を選んだりしてもよいことを助言する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔知識・技能①〕 ワークシート ・言葉を集め、四つの方法を使って「不思議な言葉」を作ったり、言葉や表現を新しい視点で解釈したりしているかの確認</p> </div>
<p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○「学びの手引き」を使い、自分がどの段階にいるのかを確かめ、次時の学習の見通しをもったり、相談する相手を見付けたりできるようにする。</p>	